

児童が自らの手で学習マップを作成した例

— 小学校5年・社会科「わが国の工業生産

『製鉄所のしごと』及び『くらしと公害』 —

新発田市立外ヶ輪小学校 森

弘 志

I 学習マップ活用の目的及び他の指導方法・教材との関連

1. 目 的

・製鉄所の仕事

1時間1時間の授業では、学習項目をこま切れで学習するため、全体のつながりを理解しにくい。それで、まとめの学習として、キーワードを与え、それを線で結んで関係付ける活動を通してつながりを理解させる。更に、学習したこと全体を見渡して、日本の工業にはどんな特色があるかを把握させる。

・くらしと公害

4大公害を学習した後、「くらしと公害」という言葉から出発させ、自由にまとめさせて、そこに書き込まれた内容及び内容間の関係付けの仕方から理解度を評価する。

2. 他の指導方法・教材との関連

・製鉄所の仕事

社会科では、新聞作りを通して資料の選択やまとめ等の自主的な学習を促したり、学習内容の確認、評価に新聞作りを利用することが多い。

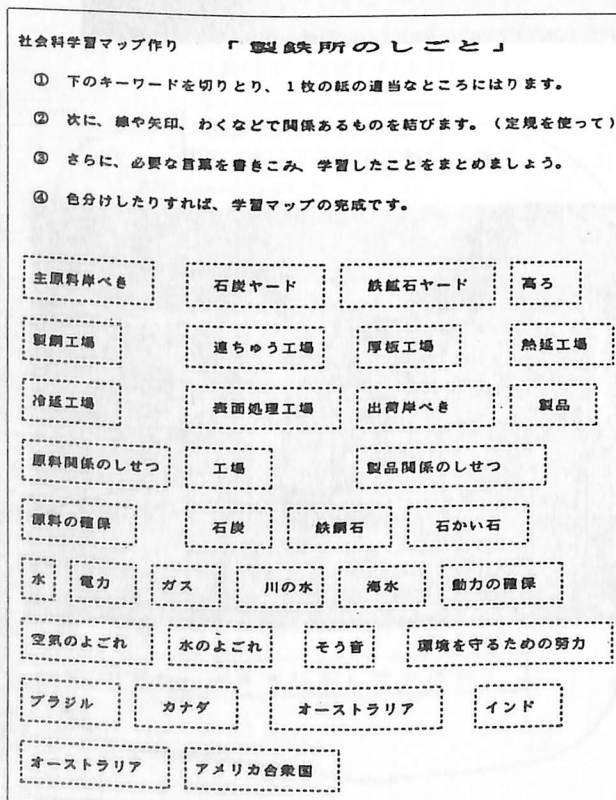
今回の製鉄所の仕事では、「原料の確保」「動力の確保」「資源の確保」「環境を守る工夫」という4つの視点を与え、新聞にまとめた。その後、上に述べたように、キーワードのリストを与えて、学習マップを書かせた。

学習のまとめとして学習内容全体のつながりをとらえるには、視覚的にとらえられる「学習マップ」の方が適しているし、個々の細かい内容をつかむには、項目を立てて説明していく「新聞作り」が適しているように思える。

II 書かせ方と留意事項

1. 製鉄所の仕事

右のような、キーワードと書き方が書いてあるワークシートを配布し、1枚の紙に貼り付けて作成させた（次頁の＜例1＞参照）。



*製鉄所内の工場群については、教科書の図を参考にさせ、貼り付ける作業をやりやすくした。

*原料から始まり、製品で終わることをヒントとして与えた。

*ただの切り貼りで終始してしまい、貼り付け作業だけで終わってしまうことのないよう、キーワードの精選が重要である。

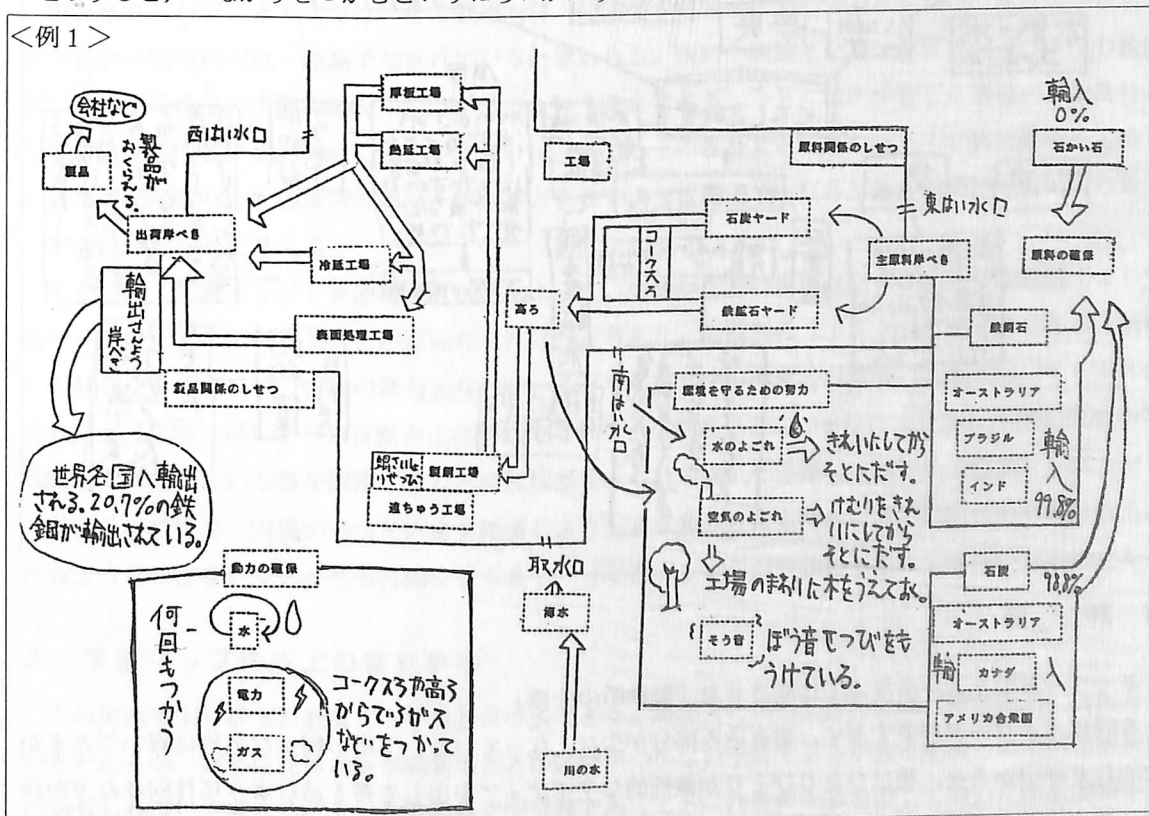
*教師がキーワードを選択する際、学習マップに何をねらうのかをしっかりと見極め、取捨選択し、必要最低限でなおかつ適確な語句を選ぶ必要がある。そのためには、

- ① 到達目標からおろしてキーワードを決める。
 - ② 各社の教科書から共通用語を取り出し、選択してキーワードとする。
- 等の方法が考えられる。

*キーワードのリストを作成する際、どういう順番で配列して子供たちに与えるのかも大切である。その順番により作業の時間が大きく変わってくる。また、言葉の軽重を考慮したリストも一つの方法。

*キーワードや矢印に、どの程度書き込みさせるのかを知らせておくことも大切である。無制限に書き込みすると、つながりをつかむというねらいがぼけてしまう可能性もある。

<例1>



2. くらしと公害

授業で次のように指示して、一斉に書かせた。

- ① 紙の真ん中に「くらしと公害」と書いて、枠で囲みなさい。
- ② 今まで学習したことがらを線でつなぎながら、どんどん書き込みなさい。

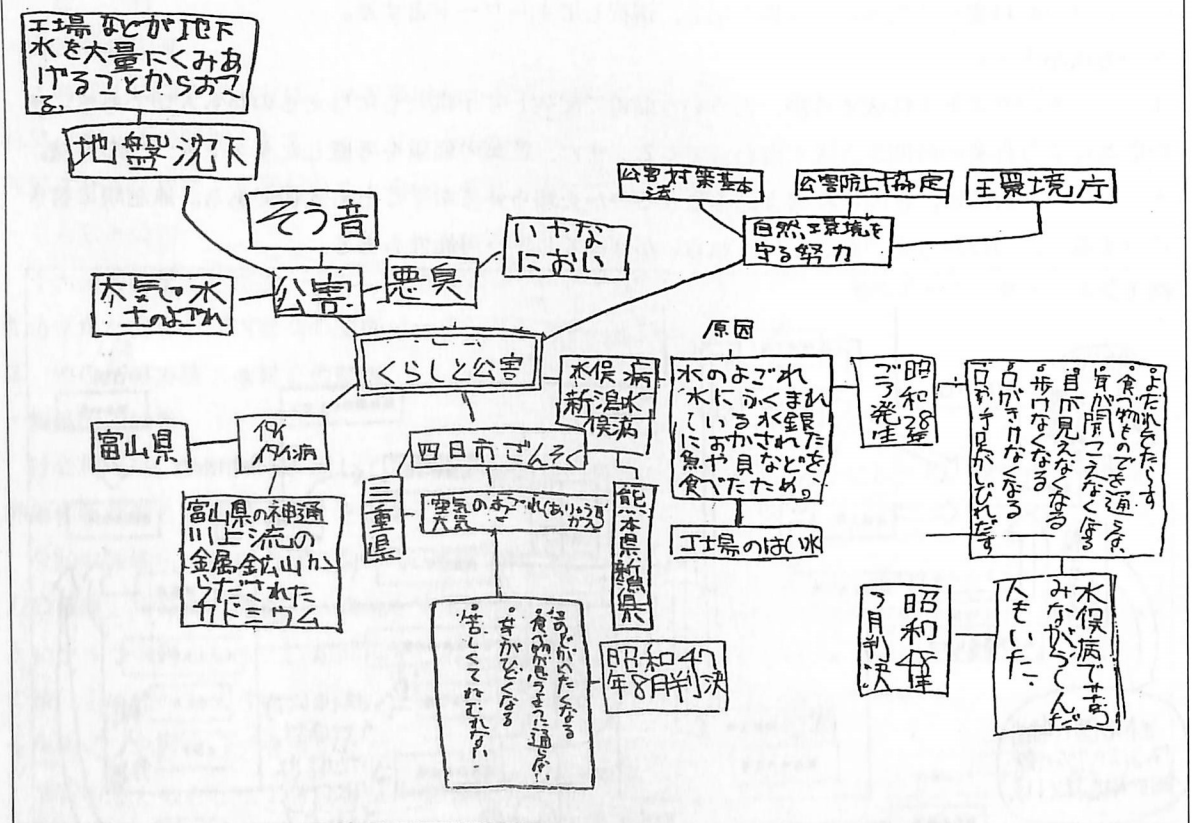
③ 説明が必要なら、自由に書き込みなさい。

④ 公害の発生から公害を防ぐ工夫まで、順を追って書いていけば良いです。

* 書けない児童には、学習済みの4大公害から選んで書き込んでも良いことにした。

* 定着度が低い児童に対する配慮が必要である。そのため、サンプルを用意しておく、段階的にキーワードを示せるようにしておく、小さい紙に1時間ごとに学習内容を簡単にまとめておき、それを紙に貼り付けることでマップの完成とするなどの手立てが考えられる。

<例2>



Ⅲ 評価

・キーワードのリストを与えて作成させた「製鉄所の仕事」

今回はキーワードが多すぎて、書き込み部分が少なくなっている。工場の細かな名称は省いて大まかな流れだけつかませ、後はひとりひとりが個性的なアイディアを出して書き込むように仕向けた方が良かったようだ。

・自らの手で作らせた「くらしと公害」

<例2>はイメージマップ風にしてあって、説明も加えられている。この程度になれば、学習の深まりを読み取ることができる。しかし、書く時間や紙の大きさ等の制約があるので、全てを網羅することは不可能である。従って、どの程度で良しとするかの基準作りが大切になる。